CONTENTS

はじめに …… P.2-3

第1章 深い学びを創造する道徳科授業の作り方

(1) 道徳科はなぜ必要なの？ …… P.10-15

(2) 「道徳的価値」と「価値観」の違い …… P.16-19

(3) 本時のねらいや主題名、中心発問の立て方 …… P.20-25

(4) 基本発問の立て方と効果的な補助発問 …… P.26-29

(5) ねらいに即した指導方法の工夫 …… P.30-35

(6) 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」とは …… P.36-39

(7) 保護者・地域と一緒に創る道徳科授業 …… P.40-47

(8) 「個別最適な学びと協働的な学び」とICTの活用 …… P.48-52

第2章

道徳科授業を核とした学級経営
いじめ問題や児童虐待への対応の充実

特別寄稿 | 道徳科の充実と学級経営 …… P.54-59

① 道徳科でしか行えない「いじめ問題への対応」とは …… P.60-65

② いじめ問題への対応と役割演技の正しい使い方 …… P.66-71

③ いじめをしない資質を育てる道徳科のカリキュラムの工夫 …… P.72-75

④ 各教科等との関連を工夫したユニットの構想 …… P.76-79

⑤ 虐待を受けた子どもと道徳科授業 …… P.80-84

第3章

特別支援教育における道徳科の工夫

特別寄稿 特別支援教育における道徳科と自立活動 …… P.86-91

(1) 指導案の作成
－具備すべき内容と工夫－ …… P.92-103

(2) 特別支援学級での授業の実際 …… P.104-109

(3) 共に主体的な学習者となる授業づくり …… P.110-113

(4) 教材から広げる探究心
－「障害理解」と「環境問題」を例に－ …… P.114-117

(5) 特別活動等での道徳教育としての展開 …… P.118-123

おわりに …… P.124-125

執筆者一覧・編著者紹介 …… P.126-127

- 本書に出てくる『学習指導要領』、『学習指導要領解説』は、平成29年に告示されたものを指す。
- 本書に出てくる教科書教材は、各発行者とも、小学校は令和6年度版教科書、中学校は令和3年度版教科書に掲載された教材を指す。

本書では、

道徳科の授業に関連する様々なキーワードを取り上げています！

最初から最後まで通して読んでいただくのはもちろん、
ちょっと知りたいことや、日頃の授業でのお悩みによって、
読みたい項目を選ぶなど、自在にご活用ください。

- そもそも道徳科って何をする教科なの？ P.10へ
- 道徳科の「授業づくりのポイント」って？ P.20へ P.26へ P.30へ
- 道徳科での「ICT活用」について知りたい！ P.48へ
- 「いじめ問題」への対応を知りたい！ P.60へ P.66へ P.72へ
- 「特別支援教育での指導案」は、どう作成したらいいの？ P.92へ P.104へ
- 特別支援教育における道徳科と「自立活動」の違いって？ P.86へ
- 「家庭や地域との連携」による道徳科の授業について知りたい！ P.40へ
- これって「主体的・対話的で深い学び」？チェック項目で確認！ P.36へ

第1章

深い学びを創造する道徳科授業の作り方



1 道徳科はなぜ必要なの？

本書では、皆さんが充実した道徳科授業ができるよう、授業づくりの手順に沿ってガイドしていきます。そもそも、「充実した」とはどのようなことを指すのか。道徳科では何をするのか。これらがつかみきれず、混乱や不安を感じている方がいるのではないでしょうか。目指すものが明確でないと、「人によって違う」状況に陥ります。そこで、まず本項では、本書を活用していただくために、この**「分かっているようで、曖昧なまま」**の部分をはっきりとイメージ化し、道徳科に求められてきた**「質的な転換」**の意味を理解できるようにしたいと思います。

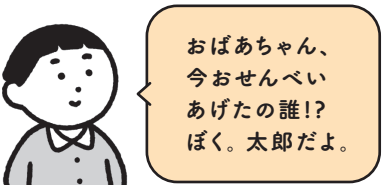
① 道徳科は、何をする教科なの？

「おばあちゃんは太郎に親切にされたときの喜びは10で、その後忘れてしまって、喜びは0になる。そして、また太郎に親切にされると10になって……10、0、10、0の繰り返しだ。でも、太郎の喜びは、おばあちゃんに親切にして喜んでもらえて、喜びが15、20、25……になるけれど、0には戻らない。」

これは、「道徳の時間」で行った授業での、「思いやり、親切」に関する児童の実感的な理解です。資料は、「ぼく」（以下、太郎）の家の前で猫と話していた認知症のおばあちゃんに親切にして、お互

いに心が通じたような喜びを感じた太郎が、翌日おばあちゃんに会ったときに「おめえ、誰だ。」と言われてしまうというものです。児童の一人（A男）は、親切にされたことを忘れるおばあちゃんに対して、「親切にされたことは忘れても、名前くらい覚えておくべきだ。それが礼儀というものだ!」と憤慨して発言しましたので、その前の発問で、おばあちゃんを家に誘った太郎の気持ちを問うたとき、「おばあちゃんは、怖くなかったかな。」とつぶやいたB男をおばあちゃんに、A男を太郎に指名して、家に誘う太郎とおばあちゃんを役割演技で演じることにしました。

A男はおばあちゃんに親切にするごとに自分の名前を覚えさせようとしました。おばあちゃんはそのたびに、念仏を唱えるように「太郎、太郎……」と何度も太郎の名前をつぶやきました。演じ終わった後、観客の児童は、「しつこい。」と言って、「おばあちゃんは怖がっていた。」と指摘しました。おばあちゃんを演じたB男は「太郎に親切にされてうれしくて一生懸命名前を覚えようとするのに、明日になると忘れてしまうのかと思うと、太郎にすまない。」と語りました。この感想を聞いた観客は、「おばあちゃんは忘れようとして忘れるんじゃない。**忘れてしまうことを悲しんでいるんだ。**」と指摘しました。A男は「もう名前なんて覚えてもらわなくていいから、もう一度（同じ場面を）やらせてください。」と監督である筆者に頼んできました。そこで、もう一度同じ場面を演じたところ、一緒においしそうにおせんべいを食べ、お茶をすする太郎とおばあちゃんが演じられました。



P.10の　　部分の発言は、その**演技が終わった後の話し合い**で出たものです。発言をした女児はその後、市役所にボランティア登録をし、2週間後の週末に高齢者施設でボランティアとして楽し

い体験をしてきました。

道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」〔（　）内は中学校〕と『学習指導要領』（小学校はp.165、中学校はp.154）で示されています。児童は、名前を覚えさせることが目的の親切は、相手を悲しい思いにさせることを実感的に理解し、（名前を覚えてもらわなくても）相手を喜ばせることを目的とした親切を実現しようとしました。その結果、親切にすることの**真の喜び**を理解しました。この一連の過程が、道徳的価値の理解と、それを基にした生き方についての考えを深める融合であり、生き方としての新たな役割を実現したことで、さらなる道徳的価値の理解の深化を促しました。他の観客にも、例えば終末において、学習から得られた理解を基に、親切にするときにどんなことを大切にしたいのかを問い、個々の児童の生き方についての考えを深めていくことが、**価値「観」を深める（個々に更新する）ことになる**のです。したがって、ここで深める価値観は、**到達目標ではなく、いわば方向目標**です。

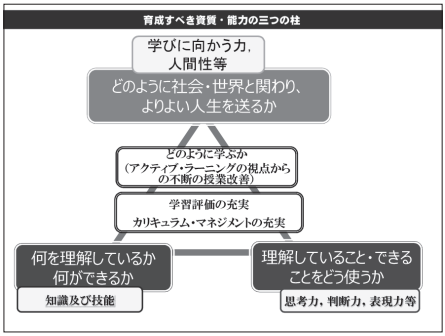
このように考えると、道徳的価値の理解は、学習によって全体で理解される学習解・合意解（この後で述べる「何を理解しているか」）であり、それを基にして深めた生き方は個々の納得解（「理解していることをどう使うか」）です。方向目標ではなく、到達目標と誤解して、納得解を一つにまとめようとしたり、特定の考えを正解のように教え込もうとしたりすることは、道徳科の学習で目指すものとは、対極のものと言わざるを得ません。先の事例についても、高齢者施設に行くことや、高齢者のために何かをすることを教えようとしたものではありません。道徳科は、**道徳性という「内面的な資質」を**

養うものであり、行為や行動そのものではなく、**それを支える見方や感じ方を培う**ものであることをしっかりと自覚しておきましょう。

② 内面的な資質とは、どんなものなのでしょう?

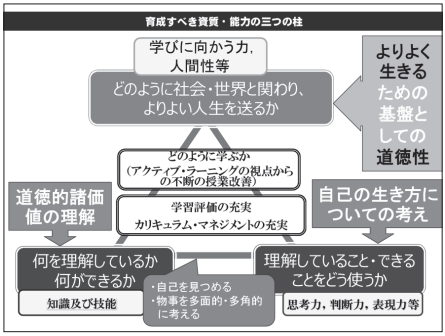
平成29年の学習指導要領の改訂で、全ての教科等で育成する資質・能力の三つの柱が、図1のように示されました。

図1



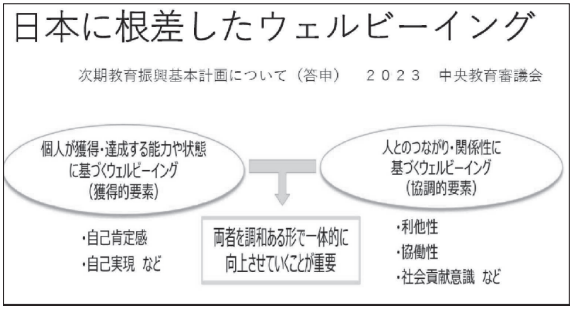
これに、道徳科の目標を当てはめると、図2のように考えられないでしょうか。

図2



ところで、これまでの「何を学ぶか」を「何ができるか」に転換させた概念は、OECD のDeSeCo プロジェクトが提示して普及したものといわれます[1)]。OECDは教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みとして、「ラーニングコンパス（学びの羅針盤）2030」を提示しました。この枠組みから考察を進めてみます。

図3



この枠組みは、個人や地域、社会の**「ウェルビーイング」**（持続的な幸福を含むよい状態）（図3[2)] 参照）に向かって、よりよく生きる意識（目的意識）をもって**「よりよい社会と幸福な人生の創り手」**（『学習指導要領解説 総則編』小学校、中学校ともにp.3）として自分の人生を形作り、他者の人生に貢献していくことを可能とする、主体的に歩

図4

